令和7年度

個別の指導計画～自立活動～

【書き方】

氏名（　　）

支援の目標

つなぎ愛シートの支援目標を記載

①現在の状況（実態）

①-１障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題等について4つの柱に即して情報収集

生活 からだ：心と体 学力：資質・能力 人との関わり	障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題等について『各学部の4つの柱～観点と内容～』に即して情報収集 ※年度末に必要に応じて加筆・訂正（1年間の児童生徒の変容が分かり、次年度に引き継ぐため） 生活全般にわたって、できることや苦手なこと・課題等の全体像を記載。 【遊び】【社会性】の観点も積極的に記載する。 余暇のこと、金銭のこと、公共施設・交通の利用に関すること等	※1ページ目の全項目で42行以内 ～16行程度
検査より	外部の専門家による検査結果と検査時の様子等を記載。 検査名、実施日、実施機関を記載。	～3行程度

①-２収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

学校教育目標の4つの柱で分けた実態を自立活動の6区分に即して整理
※実態把握チェックシート等を活用して情報収集する。
学習上又は生活上の困難だけでなく、すでにできていること、支援があればできることも記載。

◆学習上又は生活上の困難に当てはまるものに下線を引く。

～19行程度

②配慮事項

＊一年間にあった身体面の情報を記入する。（引継ぎ資料となり、来年度すぐに対応可能）
・発作の状況　※緊急時対応をした場合、記録する。記載例）〇月〇日 てんかん発作 座薬使用・食事に関するアレルギー・投薬の状況・その他、身体の状態で特に記す必要がある事項　等

～4行程度

令和7年度

個別の指導計画～自立活動～

【書き方】

氏名（　　）

③指導すべき課題の整理

①「指導すべき課題」に挙げた理由（実態、原因・背景などを含んで）
②関連性の検討結果（仮説）『ある課題の達成が他の課題の改善に影響を及ぼすであろうと考えたこと』③具体的な指導方法（本人の強みを活かした支援方法など）　等　文章で記載

～5行程度

④指導目標（長期）

上記の実態を踏まえて、1年間の自立活動の目標を記入。これはそのまま連絡簿にも記載する。
◆抽出指導をしている場合は、関連する目標に（抽出）と記載。
※目標を設定のポイント：目標は具体的かどうか・評価が可能かどうか・肯定的な目標かどうか

～4行程度

上記を達成するために必要な項目の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

学習指導要領の解説書を参考にして自立活動の6区分27項目の中から選定する。

プルダウンで選択
同じ区分の中で複数の項目を選定している場合は、セルをコピーし、挿入

⑤選定した項目を関連付け　具体的な指導内容・学習の支援を設定

	短期目標	指導内容・選定項目	支援・主な指導時間	学習の状況・記録・評価
前期				
後期				

目標（短期・長期とも）の**主語は子ども**で記載。
指導内容の**主語は教師**で記載。

上段で選定したどの項目同士を合わせたのかが分かるように（　）に選定した項目の番号を記載。
（例4－①）→環境の把握　①

【　】の中に主に指導する授業名等や場面を記載。【自立活動の時間、休み時間、パニックになった時】等も含む。

連絡簿の「学校から家庭へ」に前期・後期それぞれの学習の状況・記録・評価を記載。
※「学校から家庭へ」欄には、その他保護者に伝えたい内容は今まで通り記載。

具体的な指導内容を設定する上でのポイント
・主体的に取り組む指導内容
・改善・克服の意欲を喚起する指導内容
・発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容
・自ら環境を整える指導内容
・自己選択・自己決定を促す指導内容
・自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容

各学期
～10行程度

学校の教育活動で行われる全ての自立活動の指導について記載（※様式3には、記入なし）

⑥指導目標（長期）に対する考察

※2ページ目の全項目で（長期目標を達成するための項目選定を除く）33行以内　～4行程度

個別の指導計画～自立活動～の作成にあたって：個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、指導すべき課題を明確にし、指導目標や指導内容を定めていく。実態から明らかになった課題の原因や背景を分析し、具体的にどのような力をつけていくことが児童生徒の自立と社会参加に繋がるのかを考える。

令和7年度

【一例】

個別の指導計画～自立活動～

氏名（　　）

支援の目標

・要求を伝えられるようになる。
・様々な活動を体験する中で自ら活動に参加しようとする。

①現在の状況（実態）

①-１障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題等について4つの柱に即して情報収集

生活	・基本的生活習慣はほぼ自立している。・トイレは言葉かけが必要・生理時は確認が必要。・口の周りが汚れていても気にしない。・毎日行う朝の用意など決められたことは自らできる。・受け身で自分から動くことは少ない。・指示待ちである　・朝のあいさつは視線を合わせるとできる。　・ディズニー映画、絵を描く、パズル、ビーズアートなどが好き。・雨が降っていても傘をささず普段通りのコースを歩くなど決められたことを守る。・選択肢から選べる。・目の前の集団の流れについて行きやすく、目的地に到着できないことがある。・直前に聞こえた指示に従いやすい。
からだ：心と体	・疲れると机に伏せて寝る。・運動量は少なく体力はない。　・常に口が開いている。　・食べ物を噛むときも口を閉じないため食べこぼしがある。・噛む力が弱い。　・食べることは好き。野菜、堅い物は苦手。　・指先の力は弱い。・やることがわからないとじっとしている。・掲示物をきれいに並べ直す
学力：資質・能力	・平仮名、片仮名の読み書きはできる。・日常よく目にする漢字、簡単な漢字は読み書きできる。・視写できる。　・時計は読めるが時刻と生活は一致していない。 ・わからない言葉はiPadで自分で調べる。(「言葉・イラスト」と入力して調べることもある) ・手先は器用である。　・全体指示は理解しにくい。
人との関わり	・会話はエコラリアになる。・必要な事に対しては、「〇〇先生手伝ってください。」と自ら言える。「食べる？食べない？」「トイレある？ない？」などの質問に答えられるようになってきた。2択の文字カードを示すと答えられるが、はっきりしないこともある。・伝えたいことがあると近づいてくる。・「何？」の問いに答えられない。伝えたいことがある時は教師のそばで「うーうー」と言う。・自分の気持ちと合う言葉がわからない。人に感情を伝えない。・言われた通りに行動する。・好きな物には興味を示すが人にはあまり興味がない。・感想は「楽しかった」などとしか表現しない。・相手からの指示や要求に気づきにくい。
検査より	

①−２収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・疲れると机に伏せて寝る。 ・運動量は少なく体力はない。 ・噛む力が弱い。 ・食事中は口を閉じて噛まない。 ・常に口が開いている。	・受け身で自分から動くことは少ない。	・呼名や呼びかけに対して表情の変化が見られない。 ・好きな物には興味を示すが人にはあまり興味がない。 ・自分の気持ちと合う言葉がわからない。 ・人に感情を伝えない。 ・相手からの指示や要求に気づきにくい。 ・指示待ちである。 ・伝えたいことがあると人に近づく。	・直前に聞こえた指示に従いやすい。 ・相手からの指示や要求に気づきにくい。 ・全体指示は理解しにくい。 ・視覚的な手がかりをもとに物事を理解できる。 ・ヒントカードがあると答えやすい。	・手先は器用である。	・会話はエコラリアになる。 ・給食の時は、「〇〇先生手伝ってください。」と自ら言える。 ・受け身で自分から動くことは少ない。 ・表情の変化は乏しい。 ・伝えたいことがある時は教師のそばで「うーうー」と言う。 ・感想は「楽しかった」などとしか表現しない。 ・ヒントカードがあると答えやすい。 ・知っている言葉が少ない。 ・気持ちを表す言葉の数が少ない。 ・質問に対する返答ができない。 ・困ったときに助けを求めず諦めてしまう。

②配慮事項

令和7年度

個別の指導計画～自立活動～

【一例】

氏名（　　）

③指導すべき課題の整理

学校では、トイレに行きたくても教師からの言葉かけがなければ自分から行かない。また自分の気持ちと合う言葉がわからないために人に感情を伝えない。嫌なことでも拒否することなく指示されたことに従ってしまうなど常に受け身で自分から動くことが少ない。また、困った時やして欲しい事がある時でも助けを求めず諦めてしまったり、教師を呼べなかったり伝える言葉がわからず伝えられないなどコミュニケーション面に課題がある。そこでコミュニケーションの基礎である要求や拒否の伝え方を習得し、伝わった経験を積み上げることで、自ら気持ちを伝えられるようになると考えた。同時に好きな活動を取り入れながらスケジュールの活用を図ることで自分から見通しをもって動けるようになると考えた。

④指導目標（長期）

・要求や拒否を担任を呼んで伝えることができる。
・一定時間のスケジュールを理解し、自分で動ける。

上記を達成するために必要な項目の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する こと。	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること。	(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。		(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
		(2)他者の意図や感情の理解に関すること。			(2)言語の受容と表出に関すること。

⑤選定した項目を関連付け　具体的な指導内容・学習の支援を設定

	短期目標	指導内容・選定項目	支援・主な指導時間	学習の状況・記録・評価
前期	・自分の気持ちに合う言葉を知る。 ・「いりません」「やめてください」を担任に伝えることができる。 ・選択肢を組み合わせてスケジュールを立て行動できる。	・様々な活動場面を設定し気持ちを表す言葉と結びつけられるよう指導する。3-② ・拒否を伝える場面を設定し文字カードで確認しながら伝え方を指導する。3-①4-⑤6－② ・スケジュールの立て方を視覚的に説明し、立てたスケジュールに沿って活動できる場面を設定する。2-③	・気持ちのイラストを机上に置いて活動の後に選べるようにする。【自立活動の時間】 ・文字カードを机上に置いて発信できるようにする。プロンプトで方法が身につくまでサポートし、身についたら発信するまで待つ。【自立活動の時間、学校生活全般】 ・スケジュールボードと「トイレ」を含めた選択肢カードを用意する。【自立活動の時間】	
後期	・「～してください」「手伝ってください」を担任を呼んで伝えることができる。 ・1日のスケジュールを作成し、スケジュールを確認して動ける。	・援助が必要となる場面を設定し相手を呼んでから伝えることを指導する。2-③3-①6-①② ・1日の予定表を提示しながら自分のスケジュールの作成の仕方を指導する。2-③	・文字カードを机上に置いて発信できるようにする。発信するまで待つ。【自立活動の時間、学校生活全般】 ・スケジュールボードと時間割カード、トイレカードを用意する。【自立活動の時間】	

⑥指導目標（長期）に対する考察